



天文ニュース(No.176)

夕空で5惑星が集合 2002年4月16日発行

4月下旬から5月上旬の夕方、明るい5つの惑星(水星、金星、火星、木星、土星)が西空に集まって見えます。5月14~15日には、細い月も加わって美しい眺めになるでしょう。

下図のように位置は、木星がふたご座、他の4惑星がおうし座の中にあります。5惑星の明るさは、水星が0~1等星、金星が-4等星、火星が2等星、木星が-2等星、土星が0等星。

水星は、5月4日に東方最大離角といって太陽から最も東に離れ、夕方、最も見やすくなります。

金星は、5月8日に土星と、11日には火星と、15日には月(月齢3)と並んで見えます。

月と5惑星は、見かけの上で並んでいるだけです。実際の距離は、月が地球から約39万km、水星が約1億2000万km、金星が約2億2000万km、火星が約3億5000万km、木星が約8億5000万km、土星が約14億8000万kmです。

今回のように5惑星が集まるのは、2000年5月中旬以来、2年ぶりです。ただし、このときは太陽を中心に集まっていたので、見ることはできませんでした。

次回は、国立天文台・天文ニュース532号によると、2040年9月上旬に夕方の西空で見えます。

この機会にぜひご覧ください。写真に興味のある方もぜひ撮影してみましょ。

上記の美しい光景を写真に撮影する場合は、一眼レフカメラにカラーフィルム(ISO400~800)を入れ、レンズのしぼりを開放か1~2段階しぼり、三脚に固定して露出します。

露出時間は、フィルム感度(ISO)や空の明るさを考慮して決めます。

ISO400のフィルムを使用した場合、夕暮れの薄明かりが残っている時には、1~10秒間。空が暗くなった時には、10秒~数分程度の露出で撮影するとよいでしょう。

